



株式会社日本フードエコロジーセンター

(JAPAN FOOD ECOLOGY CENTER,INC.)

食品リサイクル事業を通じて、
循環型社会の形成に貢献します。



株式会社 日本フードエコロジーセンター

電話でのお問い合わせ : 042-777-6316 (代表)

ホームページ : www.japan-fec.co.jp



工場概要

会社案内 COMPANY



2016.4.1

項目	内容
施設の名称	株式会社日本フードエコロジーセンター TEL042-777-6316 (代表) FAX042-777-6317
施設の設置場所	〒252-0245 相模原市中央区田名塩田1-17-13 (工場設置場所) 相模原市中央区田名塩田1-10215-6 (駐車場)
土地利用の区分	市街化区域、工業専用地域
面積	【工場】 土地面積： 1527m ² 建物面積： 909.5m ² 【駐車場】 土地面積： 1325m ²
取扱廃棄物名	動植物性残渣、廃酸、廃アルカリ、汚泥 (食品に限る) 一般廃棄物 (生ごみ)
処理方式、能力	飼料化 (破碎・発酵処理) 39t/日 ・一般廃棄物処分13t/日 ・産業廃棄物処分26t/日
施設稼働時間	搬出入時間：午前8時～午後5時 365日稼働

社名 株式会社日本フードエコロジーセンター
(JAPAN FOOD ECOLOGY CENTER,INC.)

本社 神奈川県相模原市中央区田名塩田一丁目17番13号
TEL : 042-777-6316 (代表)
FAX : 042-777-6317

代表者 代表取締役 高橋巧一

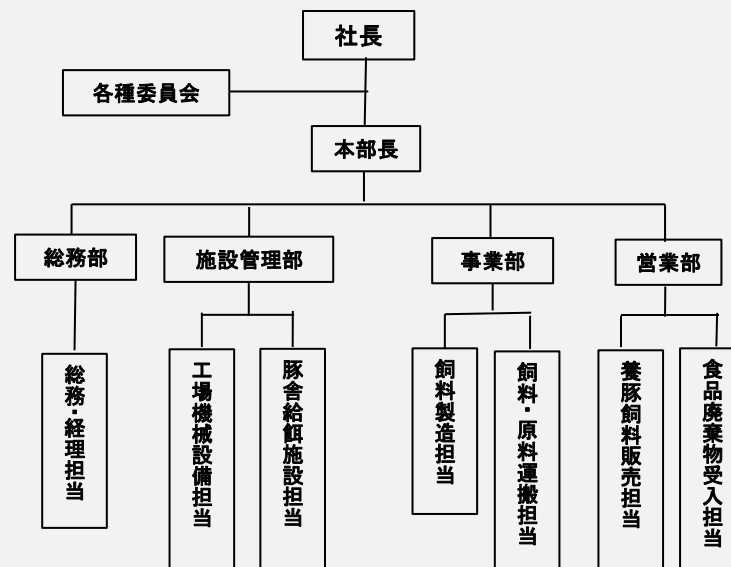
資本金 1,000万円

事業内容 食品リサイクル事業
(廃棄物処分量、飼料製造業、その他)

従業員 30名 (パートタイマー含む)

一般廃棄物処分量許可証 (相模原市)	2015. 10. 1 (2017. 9. 30)	相許可第B0213号 一般廃棄物処分量 相模原市指令(廃指一)第60号
産業廃棄物処分量許可証 (相模原市)	2013. 10. 1 (2018. 9. 30)	許可番号:第09820172918号
再生利用事業登録証明書 (環境省・農水省)	2013. 10. 1 (2018. 9. 30)	登録番号:14-11 <2005.3.3>
再生利用事業計画認定 (農水省・経済産業省・環境省)	2014. 3. 28 (2017. 3. 31)	(変更申請:2013. 11. 14) 20総合第1034号・産第5号・ 環廃企発第080904001号 廃棄物処理法の特例 (リサイクルループ)

株式会社日本フードエコロジーセンター 業務組織図



食品リサイクル作業の流れ 1



提携運搬業者が食品工場等から回収



専用保冷車でフードエコロジーセンターへ搬入



バーコードにより事業場別にデータ(量)を
インプット

専用回収容器にて計量

① 食品循環資源の搬入

② 搬入物の計量



＊破袋機

(破袋機:おにぎり、サンドイッチetc)

③ 原料投入 (余剰食品)

④ 選別作業 金属探知機、マグネット等

食品リサイクル作業の流れ2



⑤ 破 碎



破碎終了後（1次タンク内）



熱交換器 ⑥ 殺菌処理

大腸菌 (O-111・O-157) ・サルモネラ菌他



⑦ 発酵処理

乳酸発酵処理によりPH4以下に調整



⑧ 飼料運搬用タンクローリー

12~24時間後、タンクローリーで豚舎へ出荷



給餌風景

価格競争力

一般配合飼料と比較し、
飼料コストを約50%削減



安全性

- ・コンピュータによる成分管理
- ・殺菌発酵技術による安全性の確保
- ・発酵飼料によるプロバイオティクス効果



サポート体制

- ・給餌システムのサポート体制
- ・専属獣医師による経営アドバイス
- ・豚肉のブランド化及び販売協力体制

価格競争力

リサイクルでありながら、焼却処理よりコスト低減が可能であり、設備投資も必要ないシステム



サービス

- ・365日の収集体制
- ・容器回収システムによる悪臭・汚水の発生防止
- ・日別、部門別発生量のフィードバックシステム



信用力

- ・農林水産省、環境省との連携力
- ・各大学・研究機関との研究実績
- ・廃棄物処理業としての多くのライセンス

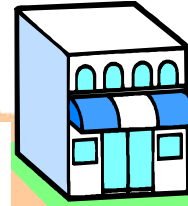
ループリサイクル (循環型社会) の形成

食品関連企業180以上の事業所

食品関連事業者



大手食品スーパー等
でブランド肉として
販売



事業活動によって発生した
食品循環資源 (余剰食品)

小田急グループ
東急グループ
セブン&アイグループ
日本水産グループ
キューピーグループ
エコスグループ
森永乳業、明治、
タカナシ乳業、キリン、
モランボン、高島屋、
いなげや、ヤオコー、
ライフ、京急ストア etc

契約養豚農家 関東近郊の15戸



< 事業概要 >

- ・ 現在 32 t / 日の食品循環資源を受入
- ・ 40 t / 日のリキッド発酵飼料を製造
- ・ 契約養豚生産者と協力して付加価値のある豚肉を生産し、食品関連事業者で販売



収集運搬業者

飼料を 10 t 車外加-リ-で配送



日本フードエコロジーセンター
リキッド飼料化工場
バーコードにより把握した食品循環資源
を種類、量に関する情報をもとに、
製造飼料の配合設計を実施

